第二回 アジア専門図書館国際会議開催報告

澤田裕子

二〇一一年二月一〇日（木）―一二日（土）、「第二回アジア専門図書館国際会議」（International Conference of Asian Special Libraries―ICoASL2011）が「ユーザーの信頼獲得をめざして―デジタル時代における専門図書館革新の重要性」をテーマに日本の国連大学で開催された。世界七五カ国に約一万一〇〇〇人の会員を有し、アメリカに本部を置く専門図書館協会（SLA）の地域別コミュニティ、アジアンチャプターの主催で、第一回は二〇〇八年にインドで開催されている。アジア諸国の情報専門家による研究や取り組みの成果報告と情報・知識の共有を目的に、今回は日本の専門図書館協議会と共同開催され、各国から約二〇〇名が参加した。会期中、都心部で雪が降り、初めて雪を見た参加者に喜ばれた。

大会の風景

一〇日の基調講演では、二〇一〇年SLA会長のAnne Caputo氏（ダウ・ジョーンズ社、アメリカ）が、「Living in the new normal―Global trends all knowledge professionals should understand」と題して、グローバル化や不況による予算削減、情報流通の変化、技術革新等、従来の情報サービスに変化をもたらした世界的な動きを背景に、Facebookやツイッター等のソーシャルメディアの登場を迎えた新たな生活環境の中、情報専門家としてどのような戦略を立て、対応していくか、示唆に富んだ講演を行った。

招待講演では、Xiaolin Zhang氏（中国科学院国家科学図書館）、二〇一一年SLAアジアンチャプター代表のBP Prakash氏（Tata Consultancy Services、インド）、守住信貴氏（電通総研ナレッジセンター室）、Kay Sook Park氏（韓国電子通信研究院図書館）、Scott Davidson氏（Absolute Asia Asset Management、シンガポール）が、デジタル時代における自館の運営や自国の図書館事情について講演した。このうち、中国、韓国、日本の事情について紹介したい。まず、自然科学や科学技術分野の国家研究機関である中国科学院は、国内三二カ所に専門分野に特化した九七機関を設置し、約一万人の研究者や院生を有している。北京の国家科学図書館や蘭州、成都、武漢の分館では専任の主題ライブラリアンを配備し、専門的なレファレンスサービスと戦略的な情報分析を行い、より組織的に研究活動に参加することで図書館の存在意義を堅持している。一方、韓国の専門図書館では図書館スペースや運営に係る人員の削減という日本と共通の問題を抱え、その解決の糸口として、自らが新たな市場を創造し、低コストで高付加価値を提供することで利潤を最大化するというビジネス戦略「ブルー・オーシャン戦略」の活用を提案していた。さらに、日本の電通総研ナレッジセンター室のようにサービスの質において即時性が求められる専門図書館では、メディアの発達を生かしてあらゆる情報源を活用し、利用者ニーズに即した付加価値サービスを提供している。また、Eラーニングセミナーでは、元SLA会長のStephen Abramが、情報専門家として最新技術を学習することの重要さを述べると同時に、戦略的に研鑽することの必要性を強調した。

一日目の終わりには優秀論文賞授賞式があり、約六〇点の応募からイランと日本の二論文に対して第一位、二位が授与された。二位を受賞したのは、当研究所学術研究リポジトリ（ARRIDE）の取り組みを報告した論文「Aiming at improving access to research output through the Institutional Repository」である。ARRIDE（https://ir.ide.go.jp/dspace/）はオープンアクセスデータプロバイダーとしてRePEc等の国際的データベースと連携し、研究成果の検索や閲覧をより効果的に行える仕組みを作っている。検索可能なインデックス等の付加価値を提供し、研究成果の世界的な認知度を高めた点で、ARRIDEの事例が評価されたものと認識している。過分な評価に戸惑いもあるが、多くの参加者からお祝いの言葉を頂き、開催国の発表者として大変光栄なことであった。今後も研究所の成果を世界に発信するため、取り組みを続けていきたい。

二日の応募論文発表は四回のセッションに分けられ、各六論文が発表された。各セッションのテーマは、「専門図書館サービスの新局面」「親組織の戦略的方向性に沿ったサービス」「専門図書館サービスのブランドの確立とマーケティング、戦略的方向性、ベストプラクティスと業績評価」「利用者調査、満足度指標と利用者の信頼構築のための尺度」である。インドやスリランカ、フィリピン、イラン、シンガポール、アメリカ、中国、インドネシア、日本からの発表

表彰状を受ける当館坂井職員、筆者

者が学術的、実務的な内容の報告を行い、活発な意見交換がなされた。優秀論文賞の一位を受賞したイランの「Developing user-centered displays for literary works in digital libraries—Integrating bibliographic families, FRBR and users」は第二セッションで発表された。これは、Ferdowsi University of Mashhad の図書館情報学部の教員と博士課程修了生が、文学作品を収録した電子図書館の検索システムにおいて、FRBRモデル（注）と利用者の視点を基に検索結果を再構築する方法を考案し、相互に関連する文学作品を論理的に配列して、より利用者の期待に沿った結果を提示する可能性を模索したものであった。

最終日の二二日は図書館ツアーが行われ、午前中にアジア経済研究所図書館、午後に江戸東京博物館図書館を訪問した。当研究所では、まず、事業の概要を説明し、次に時間をかけて図書館を見学して頂いた。

今回の会議においては、インドからの参加者が最も多く、議論に参加する姿勢も常に積極的で同国の経済的、社会的発展の勢いを反映しているように思われた。インドをはじめ、各国のライブラリアンたちと情報を交換し、親しい関係を築くまたとない機会となった。

（さわだ　ゆうこ／アジア経済研究所　図書館）

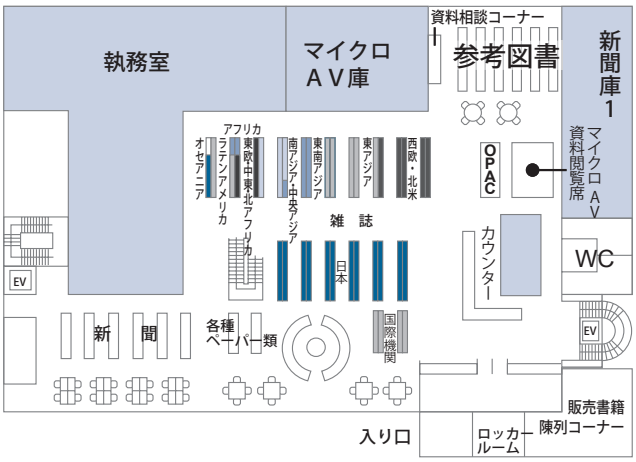
（注）資料媒体が多様化するなか、目録を作成する上で書誌レコードは何に関する情報を提供するのか、利用者ニーズの観点から書誌レコードの役割を規定し、共通認識を得るための概念モデル。IFLA（国際図書館連盟）によって一九九七年に公表された。（http://www.ifla.org/files/cataloguing/frbr/frbr_2008.pdf）

アジア経済研究所図書館各階レイアウトの変更のお知らせ

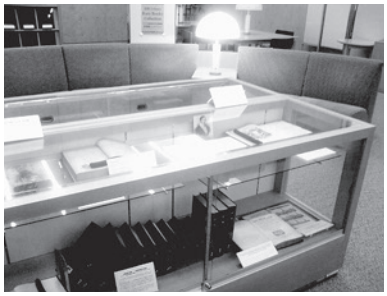
各階の配架のレイアウトを 3 月に変更いたしました。2 階の本の配列がすべて地域別になります。従来の 2 階にあった分野別の和書は、4-2 階へ移動いたしました。

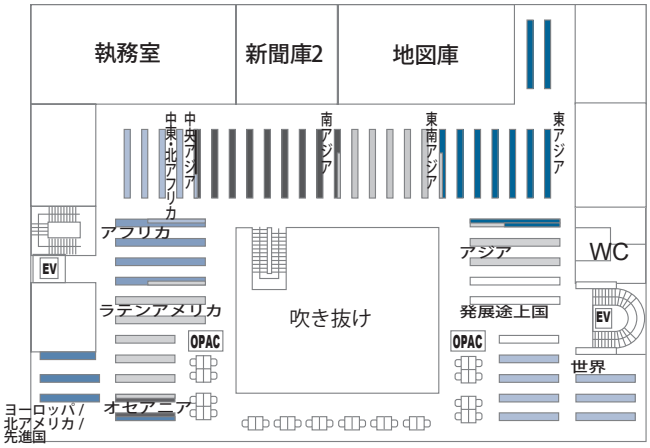
3 月 11 日に発生した地震により図書館では書庫に被害を受け、復旧作業のため臨時休館しておりましたが、4 月 1 日に部分開館いたしました。利用可能範囲はウェブサイトをご参照下さい。利用者の皆様にはご不便をおかけいたしますこと、深くお詫び申しあげます。今後ともよろしくお願いいたします。

アジア経済研究所図書館新フロア図



1 階　各国の雑誌、新聞が配架されています。

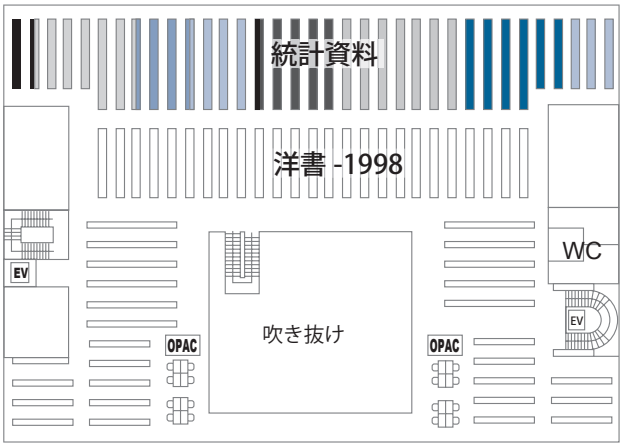

1階における資料企画展示



2 階

1998 年 10 月以降に受け入れた本が地域 / 地域別に、和書、洋書の別なく配架されています。

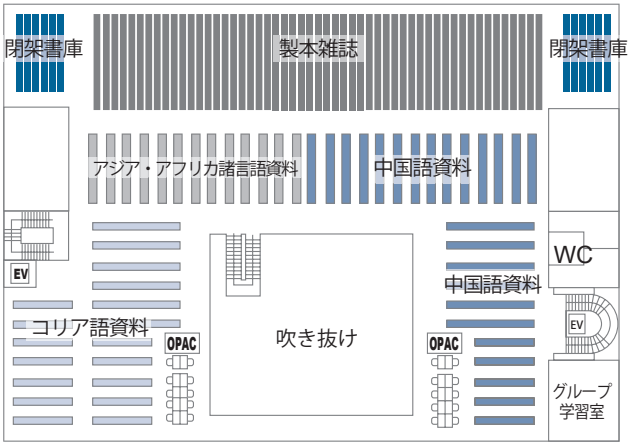
2階から4階までは大きな吹き抜けを取り囲むように書架が配置されている



3 階

3 階には各国の統計資料が地域別に配架されています。さらに 1998 年 9 月までに受け入れた洋書が分野別に並んでいます。

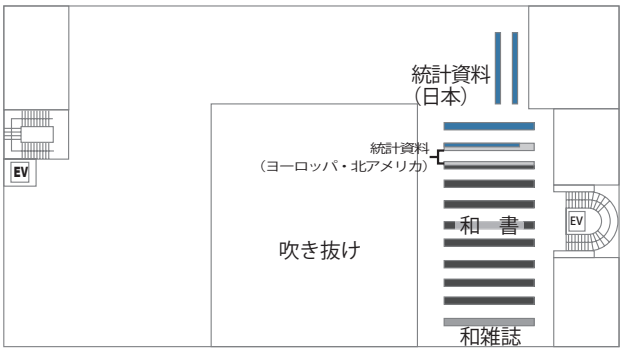
3階の閲覧机と蔵書検索端末ブース



4-1 階

中国語、コリア語、アジア・アフリカ諸言語（アラビア語・トルコ語・タイ語・インドネシア語など）の資料、および製本雑誌（バックナンバーを綴じたもの）が配架されています。

製本された雑誌が4階の電動移動書架に収納されている



4-2 階

統計資料の一部（日本、ヨーロッパ・北アメリカ）及び 1998 年 9 月までに受け入れた和書が配架されています。

4－2階の和書